

令和7年度
高等教育推進センター
活動報告書

目 次

1	高等教育推進センターの設置目的	3
2	高等教育推進センターの機能強化	3
3	高等教育推進センター運営体制	3
4	構成員	4
	（1）高等教育推進センター	4
	（2）グローバル教育部門	4
	（3）FD・SD 部門	5
	（4）教学 IR 部門	5
	（5）高大接続部門	5
	（6）教職の大学間連携に向けた検討ワーキング	5
5	主な活動成果	6
	（1）グローバル教育部門の設置	6
	（2）グローバル教育方針に基づく各取組みの推進 [グローバル教育部門]	6
	（3）ヨコハマ FD 連絡協議会の開催 [FD・SD 部門]	6
	（4）教学 IR と連動した FD・SD 研修会の実施 [FD・SD 部門／教学 IR 部門]	6
	（5）FD 活動・教学 IR 活動への学生参画 [FD・SD 部門／教学 IR 部門]	7
	（6）全国学生調査の分析 [教学 IR 部門]	7
	（7）高大連携に関する基本方針の策定について [高大接続部門]	7
	（8）高大連携事業の推進 [高大接続部門]	8
6	資料集	8

1 高等教育推進センターの設置目的

横浜市立大学は5学部6研究科を擁する総合大学である。高等教育推進センターは、全学的な教育の質保証・質向上に向け、高等教育に関する全学的な戦略及び方針の策定を行い、実施の推進を図ることを目的に令和4年4月に設置された。

2 高等教育推進センターの機能強化

設置から3年経過し、急速な少子化の進行や社会情勢の変化等、知の総和向上が求められる状況において、本学の教育の一層の質保証・質向上を目指し、高等教育推進センターの機能強化を目的として所掌事項の拡大、部門構成の変更を行った。

(1) 所掌事項の拡大

これまでの運営において、センターの活動実績や国の高等教育政策の動向等の情報発信、学部・研究科との連携が弱いという課題があったことを踏まえ、これらについて所掌事項の見直しを行った。また、大学機関別認証評価制度の見直しが進められている状況を鑑み、新しい制度に対応した教育の質保証・質向上を行っていくため、教育に関わる自己点検・評価についても、センターの所掌事項に加えた。

【高等教育推進センター所掌事項（令和7年7月改正）】下線部は新規追加した内容

- ① 本学の高等教育に係る将来構想に関すること。
- ② 教育開発に関すること。
- ③ 高等教育に関する情報の収集並びに発信に関すること。
- ④ グローバル教育の全学的な戦略及び方針の策定に関すること。
- ⑤ FD及びSDの全学的な戦略及び方針の策定並びに実施に関すること。
- ⑥ 教学IRの全学的な戦略及び方針の策定並びに分析に関すること。
- ⑦ 高大接続の全学的な戦略及び方針の策定に関すること。
- ⑧ 大学が受審する機関別認証評価における、教育に関わる自己点検・評価に関すること。
- ⑨ 第1号から第8号に掲げる事項を推進するための学部及び研究科並びに教員の活動支援に関すること。
- ⑩ その他、本学の高等教育の実施及び推進に関すること。

(2) 高等教育推進センターの組織構造見直しについて

上記所掌事項変更に伴い、センターの部門体制についても以下変更を行った。

- ・ 本学のグローバル教育について、物価高騰や社会情勢の変化等に対応し、YCUグローバル教育方針に沿ったプログラムの方針策定・推進を担う「グローバル教育部門」を設置した。
- ・ 「高大連携・初年次教育部門」について、急速な少子化の進行や高校と大学の連携加速を踏まえ、より強固な入試・教育の高大接続を目指し、部門名称を「高大接続部門」に変更した。
- ・ 既存の部門では対処が難しい課題に対し柔軟に対応していくため、センター長及び部門長が戦略及び方針の策定のための部会を設置できるように規程を改正した。また、大学間連携の推進を図るため、高等教育推進センターに「教職課程の大学間連携に向けた検討ワーキング」を設置した。

3 高等教育推進センター運営体制

高等教育推進センターに高等教育推進センター会議と各部門に部門会議を置き、既存の学内委員会との連携の上でセンターの運営を行っている。

(3) FD・SD 部門

氏名	役職
佐藤 友美	FD・SD 部門長
飯田 洋	医学教育学 講師
叶谷 由佳	老年看護学 教授
出光 直樹	高等教育推進センター／アドミッション課専門職
菊池 芳明	高等教育推進センター／教育推進課専門職

(4) 教学 IR 部門

氏名	役職
土屋 隆裕	教学 IR 部門長
藤田 浩司	臨床研修センター 講師
千葉 由美	先端成人看護学 教授
出光 直樹	高等教育推進センター／アドミッション課専門職
菊池 芳明	高等教育推進センター／教育推進課専門職

(5) 高大接続部門

氏名	役職
藤井 道彦	高大接続部門長／アドミッションズセンター長
大島 誠	国際教養学部長
和田 淳一郎	国際商学部長
佐藤 友美	理学部長
土屋 隆裕	データサイエンス学部長
金子 猛	医学群長／医学部長
赤瀬 智子	医学部看護学科長
出光 直樹	高等教育推進センター／アドミッション課専門職
菊池 芳明	高等教育推進センター／教育推進課専門職

(6) 教職の大学間連携に向けた検討ワーキング

氏名	役職
橘 勝	ワーキング長／高等教育推進センター長
大澤 正俊	副高等教育推進センター長
山田 剛史	国際教養学部教授／教職課程委員会委員長
有井 巴	国際教養学部 准教授
本多 尚	理学部教授
出光 直樹	高等教育推進センター／アドミッション課専門職
菊池 芳明	高等教育推進センター／教育推進課専門職

5 主な活動成果

(1) グローバル教育部門の設置

各学部のグローバル教育の質向上を推進するため、従来の教育開発部門内のグローバル教育班から独立し、センター内にグローバル教育部門を独立して設置した。

(2) グローバル教育方針に基づく各取組みの推進 [グローバル教育部門]

令和6年度に策定されたグローバル教育方針に基づき、各取組を推進した。特に、(1) 優秀な大学院生獲得、理学系高度人材の養成のため、本学初となるダブルディグリープログラムの立ち上げを進め、チェンマイ大学と令和9年度に開始する方向で最終合意に至った。また、(2) 学部の特長だしとなるグローバル教育の推進を喚起する仕組みとして、グローバル教育予算を配分することが決定された。さらに(3) 海外大学等との戦略的連携として、シンガポール国立大学医学部長ほか、幹部を招いてのイベント NUS Week を開催し、同大学との連携を深化させた。

(3) ヨコハマ FD 連絡協議会の開催 [FD・SD 部門]

ヨコハマ FD フォーラムは、4 大学間（横浜市立大学・神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学）で締結した「FD 活動の連携に関する包括協定」に基づいて、毎年実施している。令和6年度からは広く一般に公開する「フォーラム」形式から、関係者のみで行う「連絡協議会」とすることとなり、今年度は横浜国立大学が幹事校となり、令和7年12月13日に「ヨコハマ FD・SD 連絡協議会」が開催された。「初年次教育について考える—大学での学びのスタートを支える仕組みとは—」をテーマに実施され、外部講師1名・横浜4大学の教職員36名・学生10名が参加し、初年次教育に関する各大学の事例や課題について議論を行った。4大学間で共通した課題として、学部共通の初年次教育導入へのハードルの高さ、成績評価のばらつき等が挙げられた。

(4) 教学 IR と連動した FD・SD 研修会の実施 [FD・SD 部門/教学 IR 部門]

大学機関別認証評価に向けた意識醸成、また教学 IR や FD・SD といった活動による教育改善の重要性を教職員が再認識するため、教学 IR 部門・FD・SD 部門が連動し、FD・SD 研修会「内部質保証と教学 IR 一第4期認証評価受審に向けて—」を9月に開催した。本研修会の参加者から情報量の多さと理解の難しさが指摘されたことを受け、内部質保証及び学修成果の可視化の基本的な考え方と必要性の理解を目的として、「内部質保証と教学 IR：初級編 第1回【内部質保証とは何か、なぜ必要なのか】、第2回【学修成果を可視化するとはどういうことか&事例】」を1月に実施した。「初級編」の研修会を実施したことにより、9月と比較して内部質保証に関する教職員の理解は一定程度深まったと考えられる一方、研修会の参加者からは「保証すべき質がわかりにくい」という指摘が見受けられた。来年度以降も内部質保証や学修成果の可視化に関する理解の定着を図る研修会を企画していく。

医学部においては、「なぜ医学部に教学 IR が必要なのか」をオンデマンド配信で実施した。「なぜ医学部に教学 IR が必要なのか」では、大阪公立大学医学部 IR 室における実践事例を交えた講演が行われた。調査と実効性のあるフィードバックの結果、学生がアンケートに回答することを当然と捉えるようになり、教員も自身の担当科目について IR 室に解析を依頼するなど、IR が学内に深く浸透している状況が紹介された。IR の定着に向けた具体的な取組とその成果は、今後の参考となる内容であった。

また、これらの研修会と並行し、認証評価制度に対する理解を深めるための研修も開催した。

(5) FD 活動・教学 IR 活動への学生参画 [FD・SD 部門/教学 IR 部門]

FD 活動及び教学 IR 活動に学生の意見を反映させ、実態に沿った取組を進めるために FD 活動・教学 IR 活動への学生参画を引き続き実施した。

対象	学生参加形式	実施内容
金沢八景キャンパスにある学部・研究科	学生 FD チーム	令和 7 年度に学生 FD チームを結成した。年間を通じて定期的なミーティングを実施し、学生 FD チームとしての研修会以外の活動の検討、FD 研修会の振り返り、学生チームの活動目的の設定等を行った。また、令和 8 年度に向けて、引き続き学生スタッフを募るための募集概要を作成した。
	学生参画型 FD・SD 研修会	1 回目の FD・SD 研修会は学生 FD チームを中心に「面白い授業の基準はどこにある？—多様な学生と教員の双方にとって理想的な授業とは—」をテーマとして実施した。2 回目の研修会は、1 回目の研修に参加した FD チームの学生を中心に参加者を募り、より良い授業づくりに向けて学生と教員でディスカッションを行った。
医学科	学年代表	医学教育推進センター会議及びその下位の部門会議で学年代表に出席してもらい、学生からの意見を収集した。
看護学科	学生参画型 FD・SD 研修会	「“患者さん” から学ぶ看護教育のあり方」をテーマとした研修会を実施した。
全学	教学 IR 学生プロジェクト	令和 6 年度全国学生調査の本学調査結果と全国平均等と比較を実施し、学生視点で本学の強み・弱みや、どのような場合に成長実感強く感じられるのかを解析した。

(6) 全国学生調査の分析 [教学 IR 部門]

今年度は、①令和 6 年度全国学生調査結果について全国平均との差異等を踏まえた分析、ならびに②令和 7 年度全国学生調査の実施および本学単独での集計を行った。

①令和 6 年度調査結果の分析では、これまでの調査と同様に、本学において国際性の高い教育、専門分野に即した学修、協働的な学び等について、学部・学科ごとの特色ある強みが確認された。一方、課題等へのフィードバック、授業外学修時間の確保、学生の意見が教育改善に反映されているという実感の弱さなど、複数学部に共通する課題も引き続き認められた。これらの結果を踏まえ、FD 活動やカリキュラム改善を通じて、学修成果の可視化および教育の質向上に向けた取組を継続している。

また、②令和 7 年度調査については、回答率向上に努めた結果、回答率は 64%と過去最高となった。あわせて、今年度から BI ツールによる集計を導入し、集計に係る人的・時間的負担の軽減を図るとともに、学部への集計結果の共有を例年より早期に実施した。なお、令和 7 年度調査結果の詳細分析および改善に向けた検討は、令和 8 年度に実施する予定である。

(7) 高大連携に関する基本方針の策定について [高大接続部門]

高大連携事業の目指すべき方向性をより具体化するため、令和 8 年 2 月に基本方針を策定した。これまでは高校生が大学の学びに触れる機会を提供する「地域貢献」の側面と、優秀な人材の獲得としての「入試広報」の 2 つの側面のバランスを取りつつ、横浜市立高校を中心に高大連携事業を進めてきたが、急速な少子化の進行や高校と大学の連携加速化、入学者数の出身

地域の変化といった状況を踏まえ、今後は「入試広報」にこれまで以上に重点を置き、神奈川県周辺の高校にターゲットを広げ、高大接続強化を意識した事業を推進していく。

(8) 高大連携事業の推進〔高大接続部門〕

本学は横浜市教育委員会および神奈川県教育委員会と連携協定を締結するとともに、私立高校を含む横浜市立・神奈川県立・私立高校を対象として、高大連携事業を推進している。

模擬講義や授業・研究室見学の受入に加え、横浜市立高校教員を対象とした研修の実施、オンラインを活用した高校生向け受入プログラム、本学学生の高校派遣プログラム等を展開した。あわせて、神奈川県教育委員会の依頼により、高校生による発表会において講評を行った。

代表的な取組として、共通教養科目「病気を科学する」をオンラインによる単日プログラムとして実施し、横浜市立高校1校および私立高校5校から延べ63名が参加した。オンライン化により参加者の移動負担が軽減され、参加者数の増加につながった。

また、金沢高等学校2年生の「総合的な探究の時間」において本学学生を派遣し、延べ23名の学部生が参加した。本事業は、高校生の学習支援に加え、本学学生自身の学びを深める機会ともなった。さらに、連携する市立高校の拡大に向けた調整を進めており、令和8年度からは新たに2校を追加する予定である。

6 資料集

- (1) ヨコハマ4大学FD・SD連絡協議会 2025 開催報告
- (2) 令和7年度FD関連講演会等実績
- (3) 令和7年度教学IR実施報告書
- (4) 令和7年度高大連携実績